

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

211

江戸川区立葛西第二中学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差						
学年	第3学年			学年	第1学年			第2学年		
年度	国語	算数	合計	年度	国語	数学	英語	国語	算数	GTEC
令和12年度の目標				令和12年度の目標						
令和11年度の目標				令和11年度の目標						
令和10年度の目標				令和10年度の目標						
令和9年度の目標				令和9年度の目標						
令和8年度の目標	+1	+1	+1	令和8年度の目標	+3	+5	+5	+1	+1	+1
令和7年度の結果	-1	0	-1	令和7年度の結果	+2.6	+4.2	+4.8	-4.0	-3.8	-0.7
令和6年度の結果	-1	+3	+2	令和6年度の結果	-4.7	-4.0	-3.0	-1.5	+4.3	-3.4
令和5年度の結果	+3	+5	+8	令和5年度の結果						

年度	令和7年度	令和8年度	
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】 英語と国語に関しては「聞くこと」の分野が高い数値となっている。</p> <p>【課題】 どの教科も「自分で考えて書く」領域が低い結果となっている。</p>	<p>どの学年においても全国平均正答率を上回る結果を出す。 自分の考えを書く活動など、応用問題に対する取り組みを改善する。</p>	<p>どの教科も基礎作りが大切である。1日5分程度の小テストを実施し、確実に知識・技能が定着できる授業を行う。また、ドリルパーク等繰り返し活用できるドリルを活用する。 自分の考えを書くことが苦手な生徒が多い傾向になる。誰もが発言しやすい授業や学級の雰囲気作りを行うことで、意見をいったり書いたりすることの抵抗感を和らげていく。</p>
第1学年	<p>【成果】 いずれの教科も平均正答率が全国の基準を上回っている。 国語と数学では、「知識・技能」の平均正答率が、全国平均正答率より5ポイント以上上回っている。 一方、英語では、「思考・判断・表現」は、全国の平均正答率より、5ポイント以上上回っている。</p> <p>【課題】 国語「漢字の書き」が、全国平均に比べ、正答率が低くなっている。また「書くこと」に関して、全国平均正答率を上回っているものの、他の分野に比べ低い数値となっている。 数学では全校正答率に比べ、「方程式の利用」や「活用」の正答率が低くなっている。</p>	<p>国語は全国平均正答率を3ポイント以上、数学と英語は5ポイント以上上回る。 国語は、漢字の書きの定着を図る。 数学は、「方程式の利用」や「活用」をするため立式する力をつける。</p>	<p>国語では、「漢字の書き」が定着するよう、小テストの実施や振り返りを行う。また、正確に繰り返し練習することを狙いとし、ドリルパークを活用して定着を図る。 数学では、計算技能の定着を図り、各単元の「利用」や「活用」に関する問題に対応できるような指導を行う。また、文章題から立式する練習をする時間を十分に設けることで、身に付けた計算技能を生かせるような授業づくりに取り組む。また、習熟度別少人数の制度を活用し、各生徒の学力に応じた指導方法を数学科教員で検討し、改善を目指す。</p>
第2学年	<p>【成果】 国語は、「話すこと・聞くこと」の領域が他の領域と比べて、全国との差が小さい。 数学では、「関数」の領域が他と比べて、全国との差が小さい。 英語はいずれの分野も、全国平均正答率との差が僅差となっている。</p> <p>【課題】 国語は、特に「書くこと」の領域において6.2ポイント下回っている。 数学は、「数と式」の領域が全国平均正答率から5.3ポイント、区平均正答率から9.0ポイント下回っている。 英語は、「短答式」の正答率が低く、全国平均正答率から3.2ポイント下回っている。</p>	<p>どの教科も全国平均正答率を上回る。 数学は、基本的な計算能力を高める。 国語と英語は、漢字や英単語などの定着を促す。 また、作文の書き方を覚え、定着させる。</p>	<p>国語では、「書くこと」の定着を図るため、単元ごとのまとめとして作文を書く授業を取り入れる。教員が添削をすることや、他者の作文を見る機会を設けることで、作文の書き方を知り、活用できるようにする。 数学では、1学年で学習する文字と式の単元に課題があることから今回の結果につながったと考えられる。単元の導入前に前年度学習した内容を振り返る時間を設けることで知識の定着を図る。連立方程式や関数の分野でも文字式の計算能力は必要になってくるため、「数と式」の単元に関わらず、年間を通して継続的な指導を行う。 英語では、短答式の正答率が低い。単語の意味や綴りが曖昧になっているところを正確に覚えられるよう、単語テストやドリルパークを活用し、定着を図る。</p>
第3学年	<p>【成果】 国語は、「読むこと」が都の正答率より上回っている。 数学は、平均正答率は全国より高く、東京都と同じ結果である。問題別に見ると「数と式」「データの活用」の領域が高い。</p> <p>【課題】 国語は、都や全国と比べてC層の生徒の割合が多い。また、「話すこと・聞くこと」正答率が都、全国より低い結果である。 数学は、「関数」「図形」が少し低い結果である。</p>	<p>どの教科も全国平均正答率を上回る。 国語の「話すこと・聞くこと」の全国平均正答率を上回る。</p>	<p>国語では、「話すこと・聞くこと」の力を伸ばすため、伝わりやすい資料作りの授業を行い、様々な題材で発表を行う。スピーチや発表原稿作りを、「書くこと」の項目と関連させながら実施する。</p> <p>数学では、習熟度別少人数指導では、D層の生徒にもC層の生徒に合わせた授業を行うことで学習内容の定着を図りたい。5分間テストで既習事項を定着させていく。</p>